

誰もが誇りを持てるまちづくり



12月市議会にあたっての清水勇人市長あいさつ

■区民まつり

2025年10月4日の「第23回南区ふるさとふれあいフェア」の開催を皮切りに、市内各区で区民まつりが開催され、多くの方々に御参加いただきました。各区で工夫を凝らした催しやステージ、模擬店などが展開されました。

今後このような地域主体の取組を通じて、誰もが誇りを持てるまちづくりを進めてまいります。

■ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム

2025年11月9日に、「J:COM presents 2025 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」が開催され、国内外から多くの来場者を迎えました。

世界トップレベルの選手がさいたま新都心の街中を疾走する姿は、「スポーツのまち・さいたま」を国内外に発信する重要な機会になったものと実感しております。

特に、本市出身の渡辺悠太選手や新藤大翔選手が、本大会に初出場し、地元の声援を受けながら力強い走りを見せてくれたことは、若い世代に夢と希望を与えるものであり、スポーツ振興の面でも大きな意義を持つものと考えております。

今後も本市ゆかりのアスリートを応援し、地域に根差したスポーツ文化の醸成に努めます。

■大宮盆栽村100周年

令和7年は大宮盆栽村*1 100周年という節目の年であり、様々な記念事業が行われております。11月14日には「大宮盆栽村開村100周年記念式典」を開催、俳優の高橋ひかるさんと若手盆栽師による盆栽講座等のほか、大宮盆栽村ゆかりの名品盆栽の展示などを実施しました。

また、11月8日から24日までは、武蔵一宮氷川神社を舞台にした初のプロジェクションマッピングなどのライトアップイベントを開催いたしました。

そして、「伝統と革新でその先へ」と題した「盆栽ビジネスコンテスト」を開催しております。

こうした様々な取組は、大宮盆栽を未来へとつなぐ挑戦であり、100周年を契機に、盆栽の、地域資源としての活用を更に推進します。

■オーガニック ビレッジ宣言

11月8日と9日に「さいたま Organic City Fes.」が浦和駅東口駅前市民広場で開催され、私自身が会場にて「オーガニック ビレッジ宣言」を行いました。この宣言は、地域全体で有機農業の生産・流通・消費を一体的に進め、有機農業の推進拠点を目指すものであり、市民・事業者・行政が一体となって、持続可能な都市モデルを築いていく決意を内外に示すことができました。

この宣言を出発点として、オーガニックビレッジに対する取組を日々の暮らしや地域経済の中に根付かせてまいります。

■自動運転バス

交通の未来を見据えた実証実験も進行しております。11月には、北浦和駅西口から埼玉大学間の国道463号線上を走行する自動運転バスの実証実験を行ったほか、10月から12月にかけては、時速20km未満で公道を走る電動車、いわゆる「グリーンス ローモビリティ」*2の実証運行を浦和区内で実施しております。

こうした取組を通じて、地域が主体 となり地域を支える新たな移動手段の活用可能性を検討しております。

■書かない窓口

西区役所において先行導入しております、市民の皆様が申請書に名前を記入していただくだけで手続きが完了する「書かない窓口」*3について、10月29日から、浦和区役所、南区役所、岩槻区役所でもお使いいただけることとなりました。

令和8年1月30日には残りの6区役所にも導入し、全区役所でお使いいただけます。

そして、これを契機として、効率的な区役所運営によって一層のサービスの向上を図ることで、市民の皆様が利用しやすくなる、区役所の「シンカ」に取り組んでまいります。

さいたま市長 清水 勇人

(2025.11.26 さいたま市議会本会議場)

県民公論のマスコット



*1 大宮盆栽村

“大宮盆栽村”(さいたま市北区盆栽町)が誕生したのは、1925(大正14)年。

1923(大正12)年の関東大震災で被災した東京・団子坂や神明町の盆栽業者が、盆栽の栽培に適した広い土地、きれいな水、空気、土(関東ローム層の赤土)を求めて大宮の地を選び、東京都文京区の大和郷(やまとむら)を参考に町づくりが始まりました。

*2 グリーンスローモビリティ



(グリスロ)とは、時速20km未満で公道を走行できる電動車を活用した移動サービスです。

*3 書かない窓口

- (1)来庁者の本人確認書類を確認する
- (2)職員が対面で申請内容等をシステムに代行入力し、申請書をプリントする
- (3)来庁者は、印字された申請書の内容を確認し、名前の記入のみで手続き完了